

有効成分スピロピジオンを含む申請農薬の
使用方法及び薬効・薬害試験結果概要

1. エレスタールSC（スピロピジオン27.5%水和剤）

(1) 使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	スピロピジオンを含む農薬の総使用回数
かんきつ	カイガラムシ類 チャノホコリダニ チャノキイロアザミウマ	2000~3000倍	200~700 L/10 a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
ばれいしょ	アブラムシ類	4000~5000倍	100~300 L/10 a	収穫7日前まで	2回以内		2回以内
てんさい	アブラムシ類	5000倍	100~300 L/10 a	収穫7日前まで	2回以内		2回以内
きゅうり	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類	2000~3000倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3回以内		3回以内
うり類(成熟)	アブラムシ類 コナジラミ類	2000~3000倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3回以内		3回以内
トマト ミニトマト	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類 トマトサビダニ	2000~3000倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3回以内		3回以内
ピーマン なす	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類 チャノホコリダニ	2000~3000倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3回以内		3回以内
茶	チャトゲコナジラミ クワシロカイガラムシ	2000~3000倍	200~400 L/10 a 1000 L/10 a	摘採14日前まで	1回		1回

(2) 薬効

① かんきつ

薬効・薬害試験の結果、カイガラムシ類、チャノホコリダニ及びチャノキイロアザミウマに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-1：エレスタールSCの薬効・薬害試験結果概要（かんきつ、カイガラムシ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	静岡 H30	ヤノカイガラムシ	中	2,000 0.014	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	静岡 H30	ヤノカイガラムシ	中	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛媛 H30	ヤノカイガラムシ	多 (放虫)	2,000 0.014	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛媛 H30	ヤノカイガラムシ	多 (放虫)	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	長崎 H30	アカマルカイガラムシ	中	2,000 0.014	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	長崎 H30	アカマルカイガラムシ	中	3,000 0.009	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	熊本 H30	アカマルカイガラムシ	少	2,000 0.014	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	熊本 H30	アカマルカイガラムシ	少	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	静岡 H30	ルビゴロウムシ	多 (放虫)	2,000 0.014	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	静岡 H30	ルビゴロウムシ	多 (放虫)	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	熊本 H30	ルビゴロウムシ	中 (放虫)	2,000 0.014	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	熊本 H30	ルビゴロウムシ	中 (放虫)	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	静岡 R1	ルビゴロウムシ	甚 (放虫)	2,000 0.014	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	静岡 R1	ルビゴロウムシ	甚 (放虫)	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	熊本 R1	ルビゴロウムシ	中 (放虫)	2,000 0.014	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	熊本 R1	ルビゴロウムシ	中 (放虫)	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-2 : エレスターール S C の薬効・薬害試験結果概要 (かんきつ、チャノホコリダニ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	神奈川 R2	チャノホコリダニ	少 (放虫)	2,000 0.014	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	神奈川 R2	チャノホコリダニ	少 (放虫)	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	静岡 R2	チャノホコリダニ	多 (放虫)	2,000 0.014	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	静岡 R2	チャノホコリダニ	多 (放虫)	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛媛 R2	チャノホコリダニ	中 (放虫)	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	静岡 R3	チャノホコリダニ	甚 (放虫)	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	広島 R3	チャノホコリダニ	少 (放虫)	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛媛 R3	チャノホコリダニ	中 (放虫)	3,000 0.009	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-3 : エレスタールSCの薬効・薬害試験結果概要 (かんきつ、チャノキイロアザミウマ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	山口 R2	チャノキイロアザミウマ	少~中	2,000 0.014	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	山口 R2	チャノキイロアザミウマ	少~中	3,000 0.009	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	長崎 R2	チャノキイロアザミウマ	中	3,000 0.009	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	神奈川 R3	チャノキイロアザミウマ	少	2,000 0.014	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	神奈川 R3	チャノキイロアザミウマ	少	3,000 0.009	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛知 R3	チャノキイロアザミウマ	多	3,000 0.009	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	三重 R3	チャノキイロアザミウマ	中	3,000 0.009	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	山口 R3	チャノキイロアザミウマ	少	3,000 0.009	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	長崎 R3	チャノキイロアザミウマ	中	3,000 0.009	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

② ばれいしょ

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-4 : エレスタールSCの薬効・薬害試験結果概要 (ばれいしょ、アブラムシ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ばれい しょ	北海道 R2	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	5,000 0.006	栄養 成長期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれい しょ	長崎 R2	ワタアブラムシ	少	5,000 0.006	栄養 成長期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれい しょ	宮崎 R2	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ	ワタアブラムシ:中 (放虫) モモアカアブラムシ: 少(放虫)	5,000 0.006	栄養 成長期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれい しょ	茨城 R2	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ	少	5,000 0.006	栄養 成長期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれい しょ	鹿児島 R3	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	5,000 0.006	栄養 成長期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれい しょ	宮崎 R3	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	5,000 0.006	栄養 成長期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ばれい しょ	北海道 R2	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	5,000 0.006	栄養 成長期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して 効果が認められた が、その程度は低か った。	薬害は認めら れなかった。
ばれい しょ	長崎 R2	ワタアブラムシ	少	5,000 0.006	栄養 成長期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して 効果が認められな かった。	薬害は認めら れなかった。
ばれい しょ	宮崎 R2	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ	ワタアブラムシ:中 (放虫) モモアカアブラムシ: 少(放虫)	5,000 0.006	栄養 成長期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
ばれい しょ	茨城 R2	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ	少	5,000 0.006	栄養 成長期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
ばれい しょ	鹿児島 R3	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	5,000 0.006	栄養 成長期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
ばれい しょ	宮崎 R3	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	5,000 0.006	栄養 成長期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して 効果が認められた が、その程度は低か った。	薬害は認めら れなかった。

③ てんさい

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-5 : エレスタールSCの薬効・薬害試験結果概要 (てんさい、アブラムシ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
てんさい	北海道 R2	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	5,000 0.006	茎葉 展開期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
てんさい	北海道 R3	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	5,000 0.006	茎葉 展開期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認めら れなかった。
てんさい	北海道 R2	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	5,000 0.006	茎葉 展開期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
てんさい	北海道 R3	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	5,000 0.006	茎葉 展開期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果 が認められたが、その程 度は低かった。	薬害は認めら れなかった。

④ きゅうり

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類、アザミウマ類及びコナジラミ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-6：エレスタール S C の薬効・薬害試験結果概要（きゅうり、アブラムシ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	宮崎 R2	ワタアブラムシ	中→甚 (放虫)	3,000 0.009	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R2	ワタアブラムシ	中	3,000 0.009	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	長野 R2	ワタアブラムシ	多→甚 (放虫)	3,000 0.009	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	高知 R2	ワタアブラムシ	多	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R3	ワタアブラムシ	中 (放虫)	3,000 0.009	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 R3	ワタアブラムシ	多	3,000 0.009	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	高知 R2	ワタアブラムシ	少 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-7：エレスタール S C の薬効・薬害試験結果概要（きゅうり、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	宮崎 R1	ミカンキイロアザミウマ	中	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 R1	ミカンキイロアザミウマ	中	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 R2	ミカンキイロアザミウマ	多	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 R2	ミカンキイロアザミウマ	多	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R2	ミカンキイロアザミウマ ネギアザミウマ ミナキイロアザミウマ ヒラスアザミウマ	ミカンキイロアザミウマ:中→少 その他:少 →極少	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R2	ミカンキイロアザミウマ ネギアザミウマ ミナキイロアザミウマ ヒラスアザミウマ	ミカンキイロアザミウマ:中→少 その他:少 →極少	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	高知 R2	ミカンキイロアザミウマ	多	2,000 0.014	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	高知 R2	ミカンキイロアザミウマ	多	3,000 0.009	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮城 R3	ミカンキイロアザミウマ ネギアザミウマ	中 (放虫)	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮城 R3	ミカンキイロアザミウマ ネギアザミウマ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	茨城 R3	ミカンキイロアザミウマ	中	2,000 0.014	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R3	ミカンキイロアザミウマ	中	3,000 0.009	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	大阪 R3	ミナミキイロアザミウマ	甚	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 R3	ミナミキイロアザミウマ ネギアザミウマ	中→多	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	徳島 R3	ミナミキイロアザミウマ	少→中 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	高知 R2	ミナミキイロアザミウマ ネギアザミウマ	中 (放虫)	3,000 0.009	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-8：エレスタール SC の薬効・薬害試験結果概要（きゅうり、コナジラミ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	茨城 R1	オンシツコナジラミ	中 (放虫)	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R1	オンシツコナジラミ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮城 R2	オンシツコナジラミ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 R2	タバココナジラミ	多	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	山口 R2	タバココナジラミ	少→中 (放虫)	3,000 0.009	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R2	オンシツコナジラミ	中 (放虫)	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R2	オンシツコナジラミ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	熊本 R3	タバココナジラミ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	高知 R3	タバココナジラミ	中→多	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

⑤ うり類（成熟）

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びコナジラミ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

うり類（成熟）のアブラムシ類及びコナジラミ類に対する効果については、うり類（成熟）に含まれるかぼちゃ及びメロンの試験で評価した。

表 1-9：エレスターールSCの薬効・薬害試験結果概要（かぼちゃ及びメロン、アブラムシ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かぼちゃ	岡山 R4	ワタアブラムシ	少	3,000 0.009	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かぼちゃ	宮崎 R4	ワタアブラムシ	中→甚	2,000 0.014	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かぼちゃ	宮崎 R4	ワタアブラムシ	中→甚	3,000 0.009	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かぼちゃ	鹿児島 R4	ワタアブラムシ	少→多	3,000 0.009	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	千葉 R4	ワタアブラムシ	中 (放虫)	3,000 0.009	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	茨城 R4	ワタアブラムシ	多	3,000 0.009	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	静岡 R4	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	3,000 0.009	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	鹿児島 R4	ワタアブラムシ	少→中	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-10：エレスターールSCの薬効・薬害試験結果概要（かぼちゃ及びメロン、コナジラミ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かぼちゃ	熊本 R4	タバココナジラミ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かぼちゃ	宮崎 R4	タバココナジラミ	中	2,000 0.014	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かぼちゃ	宮崎 R4	タバココナジラミ	中	3,000 0.009	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かぼちゃ	鹿児島 R4	タバココナジラミ	少→多 (放虫)	2,000 0.014	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かぼちゃ	鹿児島 R4	タバココナジラミ	少→多 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
メロン	静岡 R4	タバココナジラミ	多 (放虫)	3,000 0.009	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	沖縄 R4	タバココナジラミ	多 (放虫)	3,000 0.009	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	鹿児島 R4	タバココナジラミ	多	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	鹿児島 R4	タバココナジラミ	多	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑥ トマト、ミニトマト

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類及びトマトサビダニに対して無処理区と比べて効果が認められた。

ミニトマトのアブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類及びトマトサビダニに対する効果については、トマトの試験で評価した。

表 1-11：エレストールSCの薬効・薬害試験結果概要（トマト、アブラムシ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	北海道 R2	モモアブラムシ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	奈良 R2	ワタアブラムシ	多→少 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

表 1-12：エレストールSCの薬効・薬害試験結果概要（トマト、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	福島 R3	ミカンキイロアザミウマ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 R3	ミカンキイロアザミウマ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

表 1-13：エレストールSCの薬効・薬害試験結果概要（トマト、コナジラミ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	茨城 R1	オンシツコナジラミ	多 (放虫)	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 R1	オンシツコナジラミ	多 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	宮崎 R1	タバココナジラミ	少	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	宮崎 R1	タバココナジラミ	少	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	宮崎 R2	タバココナジラミ	甚	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 R2	オンシツコナジラミ	少 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	高知 R2	タバココナジラミ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 R4	オンシツコナジラミ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	鹿児島 R4	タバココナジラミ	中→多 (放虫)	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	鹿児島 R4	タバココナジラミ	中→多 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-14 : エレスターール S C の薬効・薬害試験結果概要 (トマト、トマトサビダニ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	宮崎 R2	トマトサビダニ	少 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	大阪 R2	トマトサビダニ	多 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	三重 R2	トマトサビダニ	多 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	高知 R2	トマトサビダニ	多 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	三重 R3	トマトサビダニ	多 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	大阪 R3	トマトサビダニ	中→多 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	高知 R3	トマトサビダニ	多 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑦ ピーマン

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類及びチャノホコリダニに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-15 : エレスターール S C の薬効・薬害試験結果概要 (ピーマン、アブラムシ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	宮崎 R2	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 R2	ワタアブラムシ	中	2,000 0.014	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 R2	ワタアブラムシ	中	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	鹿児島 R2	ワタアブラムシ	多 (放虫)	2,000 0.014	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	鹿児島 R2	ワタアブラムシ	多 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	岩手 R3	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ	ワタアブラムシ:少 モモアカアブラムシ: 少(放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 R2	ワタアブラムシ	中→甚	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 R3	モモアカアブラムシ	少	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R2	ワタアブラムシ	多	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-16 : エレスタール S C の薬効・薬害試験結果概要 (ピーマン、アザミウマ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	宮崎 R3	ミナキイロアザミウマ	少	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R3	ミナキイロアザミウマ	少 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-17 : エレスタール S C の薬効・薬害試験結果概要 (ピーマン、コナジラミ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	茨城 R2	ホンシツコナジラミ	多 (放虫)	2,000 0.014	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 R2	ホンシツコナジラミ	多 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R2	タバココナジラミ	中	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-18 : エレスタール S C の薬効・薬害試験結果概要 (ピーマン、チャノホコリダニ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	宮崎 R3	チャノホコリダニ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R3	チャノホコリダニ	中	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑧ なす

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類及びチャノホコリダニに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-19：エレスターールSCの薬効・薬害試験結果概要（なす、アブラムシ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	茨城 R2	ワタアブラムシ	多→少	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R2	モモアブラムシ	中→多 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

表 1-20：エレスターールSCの薬効・薬害試験結果概要（なす、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	高知 H30	ミナミイアザミウマ	中	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	高知 H30	ミナミイアザミウマ	中	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R1	ミナミイアザミウマ	中	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R1	ミナミイアザミウマ	中	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R2	ミナミイアザミウマ	中	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	高知 R2	ミナミイアザミウマ	多	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
なす	大阪 R2	ミナミイアザミウマ	少	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	大阪 R3	ミナミイアザミウマ	中	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R2	ミナミイアザミウマ	少 (放虫)	2,000 0.014	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R2	ミナミイアザミウマ	少 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	高知 R3	ミナミイアザミウマ ネギアザミウマ	ミナミイアザミウマ: 中 ネギアザミウマ:少	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-21：エレスタールSCの薬効・薬害試験結果概要（なす、コナジラミ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	茨城 R2	オシツコナジラミ	少 (放虫)	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認められ なかった。
なす	宮崎 R1	タバココナジラミ	多	3,000 0.009	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認められ なかった。

表 1-22：エレスタールSCの薬効・薬害試験結果概要（なす、チャノホコリダニ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	福岡 R2	チャノホコリダニ	多 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認めら れなかった。
なす	宮崎 R2	チャノホコリダニ	中	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
なす	高知 R2	チャノホコリダニ	多	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
なす	岡山 R3	チャノホコリダニ	多	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認めら れなかった。
なす	福岡 R3	チャノホコリダニ	中 (放虫)	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
なす	高知 R3	チャノホコリダニ	多	3,000 0.009	開花・結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

⑨ 茶

薬効・薬害試験の結果、チャトゲコナジラミ及びクワシロカイガラムシに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-23：エレスタールSCの薬効・薬害試験結果概要（茶、チャトゲコナジラミ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
茶	静岡 R2	チャトゲコ ジラミ	少	3,000 0.009	二番茶 摘採期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して十分な効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
茶	三重 R2	チャトゲコ ジラミ	少	3,000 0.009	三番茶 摘採期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認 められたが、その程度は低か った。	薬害は認めら れなかった。
茶	滋賀 R2	チャトゲコ ジラミ	中	3,000 0.009	二番茶 摘採期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認 められなかった。	薬害は認めら れなかった。
茶	三重 R2	チャトゲコ ジラミ	少	3,000 0.009	三番茶 摘採期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認 められたが、その程度は低か った。	薬害は認めら れなかった。
茶	静岡 R3	チャトゲコ ジラミ	少	3,000 0.009	二番茶 摘採期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して十分な効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
茶	大分 R3	チャトゲコ ジラミ	中	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認 められた。	薬害は認めら れなかった。
茶	鹿児島 R3	チャトゲコ ジラミ	少	3,000 0.009	秋冬番茶 摘採期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して十分な効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
茶	静岡 R2	チャゲコ ジラミ	少	3,000 0.009	二番茶 摘採期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	三重 R2	チャゲコ ジラミ	少	3,000 0.009	三番茶 摘採期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	滋賀 R2	チャゲコ ジラミ	中	3,000 0.009	二番茶 摘採期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
茶	三重 R3	チャゲコ ジラミ	少	3,000 0.009	三番茶 摘採期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R3	チャゲコ ジラミ	少	3,000 0.009	二番茶 摘採期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	大分 R3	チャゲコ ジラミ	中	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	鹿児島 R3	チャゲコ ジラミ	少	3,000 0.009	秋冬番 茶摘採期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-24 : エレスターール S C の薬効・薬害試験結果概要 (茶、クワシロカイガラムシ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
茶	三重 R2	クワシロカ イガラムシ	少	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R2	クワシロカ イガラムシ	多	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R2	クワシロカ イガラムシ	中	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	宮崎 R2	クワシロカ イガラムシ	少	3,000 0.009	一番茶 摘採期	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	埼玉 R3	クワシロカ イガラムシ	少	3,000 0.009	二番茶 摘採後	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	三重 R3	クワシロカ イガラムシ	多	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R3	クワシロカ イガラムシ	少	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R3	クワシロカ イガラムシ	少	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤添加)	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	三重 R2	クワシロカ イガラムシ	少	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R2	クワシロカ イガラムシ	多	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R2	クワシロカ イガラムシ	中	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
茶	宮崎 R2	クワシロカ イガラムシ	少	3,000 0.009	一番茶 摘採期	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
茶	埼玉 R3	クワシロカ イガラムシ	少	3,000 0.009	二番茶 摘採後	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
茶	三重 R3	クワシカイク ラムシ	多	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R3	クワシカイク ラムシ	少	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R3	クワシカイク ラムシ	少	3,000 0.009	一番茶 摘採後	散布(展着 剤非添加)	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。

(3) 薬害

表 1-1 から表 1-24 に示した薬効・薬害試験において、薬害は認められなかった。

エレスタール S C (スピロピジオン 27.5 %水和剤) を用いて実施したばれいしょ、メロン、ピーマン及び茶の薬害試験結果概要を表 1-25 に示す。試験の結果、薬害は認められなかった。

エレスタール S C (スピロピジオン 27.5 %水和剤) を用いて実施した茶の残臭試験の結果概要を表 1-26 に示す。残臭試験の結果、摘採 1 日前の使用において薬臭は認められなかった。

以上の結果から、申請作物に対する薬害について問題ないと判断した。

表 1-25 : エレスタール S C の薬害試験結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果
		希釈 倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	処理時期	使用方法	
ばれいしょ	茨城 R2	2,000 4,000	0.014 0.007	栄養成長期	散布(展着剤添加)	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	静岡 R2	2,000 4,000	0.014 0.007	栄養成長期	散布(展着剤添加)	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	茨城 R3	2,000 4,000	0.014 0.007	栄養成長期	散布(展着剤添加)	薬害は認められなかった。
メロン	山梨 R4	3,000	0.009	開花・結果期	散布	薬害は認められなかった。
メロン	福島 R4	3,000	0.009	開花・結果期	散布	薬害は認められなかった。
メロン	茨城 R4	2,000 3,000	0.014 0.009	茎葉展開期	散布	薬害は認められなかった。
メロン	静岡 R4	2,000 3,000	0.014 0.009	茎葉展開期	散布	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 H28	1,000 2,000	0.028 0.014	開花・結果期	散布	薬害は認められなかった。
茶	宮崎 H31	2,000 3,000	0.014 0.009	一番茶摘採期	散布(展着剤添加、 非添加)	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R2	1,000 2,000	0.028 0.014	一番茶摘採期	散布(展着剤添加)	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R3	2,000	0.014	秋冬番茶摘採期	散布(展着剤添加)	薬害は認められなかった。

表 1-26 : エレスタール S C の茶の残臭試験結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果
		希釈 倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	処理時期	使用方法	
茶	滋賀 R2	2,000	0.014	一番茶摘採 1, 7, 14, 21 日前	散布(展着剤 非添加)	いずれの時期も薬臭は認められなかった。
	福岡 R2	2,000	0.014	一番茶摘採 1, 7, 14, 21 日前	散布(展着剤 添加)	いずれの時期も薬臭は認められなかった。